

大阪東部支部大会出場理念

阪本道場における大会出場の理念（考え方）は、あくまで”井の中の蛙”になること無く、「努力の積み重ねこそ、何物にも代え難い物」である事。道場の稽古では、中々感じにくい事を経験し、実感してもらう場所が、「大会＝試合」であると認識して推奨しています。

“勝負”という2文字はまさに“勝つ”か“負ける”のどちらかです。形は違えど試合に出るということは一種のギャンブルなのです。

しかし、“試合”では、「運」だけ通用する物ではありません。日々の稽古を怠らず「運動」する事、つまり「運を動かす」という事は、道場での「稽古」でしか培われません。また、運動能力における才能は極真空手には特別大きく左右しません。

しいていうなら「苦しくとも努力し我慢強い事」が、日本代表選手でもある私の経験からも言える1番の才能であるといっても過言では無いでしょう。

このような、お子様の精神的成長過程において、道場の稽古以外の「試し合い＝試合」という体験は、空手修行や日常生活並び勉学の地においても置き換える上で大変重要になります。そういう意味で阪本道場では、「試合」出場を推奨する意味において”勝敗だけ”という狭い世界観でとらえて考えておりません。

保護者の方に特にご理解して頂きたい点は、阪本道場ではK-1やPRIDEのプロ選手の育成を旨としての活動は行っておりません。

あくまで、新極真会は「武道空手」の追及に日々精進を繰り返しております。「強さ」は、見せ付けるものではなく”刀”と同じ“さや”にしまっておく物です。そういう意味で「格闘技（＝K-1等）」と「武道（＝空手）」は、似ても似つかわない物です。よって、同じ試合の趣旨においても大きく違質な物になります。

以上の点を阪本道場では、試合出場に対する意味を今後変わらず推奨して行きたいと考えておりますので皆様今後とも変わらぬご理解のほど宜しくお願い致します。

新極真会 大阪東部支部 師範

阪本 晋治